令和８年度

大阪大学
総合型選抜・学校推薦型選抜
解答例又は出題の意図

小論文（H）

問題１　解答例

問１

「変わりあい」としての対話　（13 字）

問２

怒りが自分自分に向けられることなく相手にばかり向かってしまう場合，怒りが暴力を生み出してしまう場合，およびケンカの当事者たちの関係が対等ではない場合。（75 字）

問３

本文の議論では，自己と他者が「共に生きられる社会をつくる」こととは「ケンカするほど仲が良い」関係を目指すことであるとの指摘が中心的主張の一つとなっている。しかし，この主張は，怒りのような激しい感情のぶつけあいが，その当事者である人々や社会などに許容されている場合にしか妥当しないのではないだろうか。たとえば本文で取り上げられているイロンゴット族の居住するフィリピンの別の社会では，怒りの感情を他者に露わにすることが好ましくないものとして捉えられる傾向にあるという。また，日本でも，怒りを他者にストレートにぶつけることを可能であれば避けたいと考えている人もいる。こうした人々や社会においては，そもそも怒りの感情を他者に表立って表現すること自体が否定的に捉えられてしまうので，「仲が良い」関係をつくるためには「ケンカ」とはまた別の方法をとる必要があるのではないだろうか。（383 字）

出題意図：長文の的確な読解力，批判的な考察力，自分の考えを説得力のある文章として表現できる文章力，をみきわめることを意図した。

問題２　解答例

問１

根拠をもって正しいと信じられるものであるだけでなく，他の知識との間にも繋がりが見出されており，必要とされる場面において思い起こされ，さまざまな場面で考えるために役に立つもの。(87 字)

問２

ある事柄についての情報やその記憶を，他の知識との結びつきを作ったり，自分の経験を踏まえてどこで役に立つものかを考えたりすることで，知識は構成されるという考え方。(80 字)

問３

私は臨床心理学を学び，人間関係の悩みから学校に通うことに困難を抱える子どもたちを支援する職に就きたいと考えている。授業では，人間関係で生じやすい問題や，その対処方法について教わることができるだろう。しかし，教わった内容を実際の子どもたちへの支援に活かしていくためには，教わった内容を，授業や教科書の中では出てきにくい子どもたちのリアルな声や経験と結びつけて知識として構成する必要がある。授業で教わった内容を経験と結びつけた知識として学ぶことができるように，子どもたちを支援する立場で関わることができるボランティアなどにも積極的に参加していきたい。(273 字)

出題意図：認知科学の視点から，知識とは何か，そして知識を学ぶとはどういうことかを論じている書籍の一部を題材とした。問１，問２は本文に記載されている内容を忠実に要約し，それぞれ「有用な知識」「構成主義」の２つの鍵となる考え方を整理して読み取れるかを問う。問３は本文で論じられている「有用な知識」「構成主義」の２つの考え方を踏まえて，自身のとるべき学びの姿勢について考えて論じることができるかを問う。